

気候変動に対応した飼料作物の栽培

1 目的

近年の温暖化傾向により、高温、豪雨などの気象災害が増加している。牧草地においても高温による夏枯れで雑草が繁茂し、収量や品質に影響を与えている。一方で草地更新の際に豪雨等で播種時期を逸したり、播種したものが流されて再播種となるなど、適期に播種できない事例も散見される。

そこで、強害雑草の防除と播種時期が遅れた場合の栽培体系について検討を行い、良質な牧草生産が安定的に可能となる。

2 研究計画・試験方法等

1) ワルナスビ防除試験

ワルナスビ発生ほ場で、スーダングラスを播種することによるワルナスビ抑草効果等を検証する。

ワルナスビ

ナス科の多年草で外来雑草。茎葉に棘があり、植物体にソラニンを含む。種子と地下茎で増え、繁殖力が強く、一度入り込むと駆除が難しい。



スーダングラスによる被陰効果と選択性除草剤による防除試験

2) フロストシーディング(初冬季播種)実証試験

オーチャードグラスを12月10日頃に播種し、発芽日、生育状況、収量等を調査する。

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
慣行	播種・発芽								1番草収穫	
フロスト				播種			発芽			1番草収穫

フロストシーディングとは発芽に適さない初冬時期に播種し、種子の状態を越冬させて翌春の融雪後に発芽させる方法



早春3月 発芽後



初夏7月 2番草再生後

